

○心疾患・脳血管疾患と心肺機能

①血液・血管から見る脳や心臓への影響

動脈硬化とは

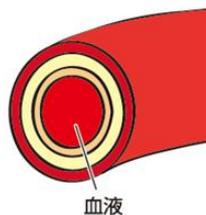
動脈が年齢とともに老化し、弾力性が失われて硬くなったり、動脈内にさまざまな物質が沈着して血管が狭くなり、血液の流れが滞る状態を動脈硬化といいます。

潜む危険性

入浴によって発汗、腎血流量の増加による尿量増量により体内水分が減少します。

高齢者は水分保持能力が低いので血液の濃縮、血液粘度の上昇を招きます。動脈硬化が進んだ高齢者では、血液循環を妨げ、血栓ができてしまう危険性もあります。

正常な血管



血液

動脈硬化を起こした血管

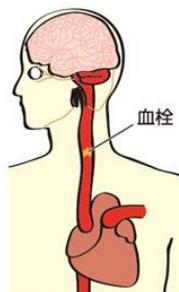


血液が通る部分が狭い

コレステロールの沈着

○脳梗塞(のうこうそく)

脳の血管にできた血栓で血管が詰まる脳血栓(のうけっせん)。脳以外でできた血栓が血流で脳に運ばれて詰まる脳塞栓(のうそくせん)があります。



血栓

○虚血性心疾患(きょけつせいしんじっかん)

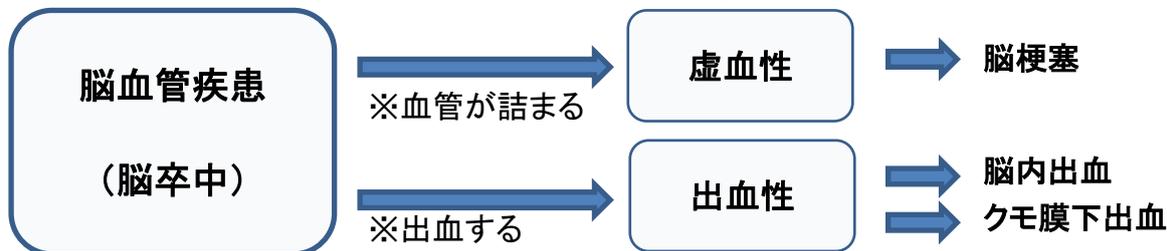
心臓の冠動脈が狭くなり心筋への血流が低下して起こる狭心症。冠動脈がふさがって心筋の一部が壊死(えし)してしまう心筋梗塞(しんきんこうそく)があります。

○大動脈瘤(だいでうみゃくりゅう)

心臓から運ぶ血液が通る大動脈に動脈硬化が進行すると、血管の膜が脆くなり、膨れ上がるようなコブができます。コブが大きくなることで破裂する危険性もあります。

②脳血管疾患(脳卒中)とは

頭蓋骨の中の脳の血管が原因で起こる病気の総称です。「脳卒中」も同様です。



③高齢者の心肺機能の低下

加齢による影響や病気を患うなどして心肺機能が低下すると、しんどい、疲れる、辛い、長く歩けないなどにより動くことがおっくうとなり生活が不活発になりがちです。

- ・心血管系では、最大心拍数の低下、血流量の減少、動脈硬化、運動に対する対応力の低下など見られます。
- ・呼吸器系では、最大酸素摂取量の減少、換気量低下、肺活量の低下、呼吸筋の筋力低下、痰を吐き出す力の低下などがみられます。

入浴は、静水圧による作用で呼吸筋の運動にも繋がります。ただし、心肺機能の低下した高齢者の場合、負荷をかけすぎないように半身浴(首まで湯につからない)といった、静水圧への配慮が求められます。

訪問入浴介護で押さえておくべきポイント

訪問入浴介護の浴槽は水圧の負担を軽減するため、仰臥位(寝ながら)で入浴します。

「水深は浅く」、「心肺は水面ぎりぎりの位置」にて入浴しますので、静水圧による心肺への負担をできるかぎり抑えた安心設計がされています。

